

S B I インシュアランスグループ株式会社**2025年3月期 通期決算説明の要旨****(2025年5月9日)**

関連資料

1. 2025年3月期 決算説明会（機関投資家・アナリスト向け）（動画）
2. 2025年3月期 決算説明資料（プレゼンテーション資料）

掲載先 URL : <https://www.sbiig.co.jp/ir/irvideos/index.html>

当社社長が行いました上記ご説明の要旨を以下に記載いたしました。必要に応じてご参照くださいますようお願いいたします。

（前略）

<連結業績>

- ・ 本日（5月9日 11 時 30 分）公表した 25 年 3 月期決算についてご説明します。
- ・ （プレゼンテーション資料（以下「資料」）P.4）2025 年 3 月期通期の連結業績は、経常収益が前期比 8.3%増加の 1,184 億 6 千 3 百万円。経常利益が 15.0%増加の 94 億 7 千 4 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が 37.1%増加の 19 億 8 千 8 百万円でした。
- ・ 3 項目ともに当社の過去最高金額であり、特に純利益は大幅な増益での着地でした。
- ・ （資料 P.5）経常収益の当期までの 5 年間の推移です。前期に初めて 1 千億円を突破し、その後も堅調に推移しています。
- ・ 増収の主な要因は、保有契約件数の堅調な増加に伴う保険料の増収です。
- ・ （資料 P.6）保有契約件数は、3 事業共に増加が続いており、当期末における 3 事業合計の保有

契約件数は、6.2%増加の 299 万件でした。

- ・（資料 P.7）3 事業合計の収入保険料は、11.8%増加の 1,080 億 1 千 6 百万円でした。
- ・（資料 P.8）経常利益は、前期に生命保険事業で一過性の収益があり、前期の経常利益が 82 億 3 千 6 百万円と、その前の期から 30%を超える大幅な増加となっておりましたが、当期はそこからさらに 15.0%増加の 94 億 7 千 4 百万円でした。
- ・（資料 P.9）純利益も順調に増加しており、ご案内のとおり、当期は 37.1%増加の 19 億 8 千 8 百万円でした。
- ・（資料 P.10）IFRS に関する参考開示です。当社は当年度第 3 四半期決算から、当社の親会社である S B I ホールディングスの国際会計基準（IFRS）に基づいた連結業績に含まれている、当社グループの税引前利益の金額を開示しています。
- ・現在、S B I ホールディングスは決算発表前のため、こちらの金額については、5 月 9 日の夕方から行われる S B I ホールディングスの決算説明会開催後に、当社ホームページで開示します。
基本的には、第 3 四半期決算と同様、日本基準よりも IFRS の方が大分大きな利益の金額となる見込です。

<セグメントごとの経営成績>

- ・経常収益は、3 事業共に増加しました。経常収益の構成比は、損害保険事業 34.1%、生命保険事業 37.4%、少額短期保険事業 28.5%でした。
- ・セグメント利益も 3 事業共に増加しました。セグメント利益の構成比は、損害保険事業が一番大きく 59.9%、生命保険事業 31.2%、少額短期保険事業 8.9%でした。

<損害保険事業>

- ・保有契約件数は、前期末比 4.5%の増加。このうち実損填補型のがん保険は 8.9%の増加でした。
- ・元受正味保険料は、保有契約件数の堅調な増加などにより、前期比 9.9%の増加でした。
- ・経常収益は、保険料の増収により、9.6%の増加でした。
- ・セグメント利益は 20.4%の増加。主力商品のダイレクト型自動車保険で保険金支払いが増加しま

したが、増収効果に加え税金費用の減少なども寄与し、2億6千3百万円の増益で着地しました。

<生命保険事業>

- ・保有契約件数は、19.6%の増加。このうち団体信用生命保険は、24.0%の増加でした。
- ・保険料収入は、保有契約件数の順調な増加により、21.3%の増加でした。
- ・経常収益は、10.0%の増加でした。
- ・セグメント利益は、前期には責任準備金の戻入額が一過性の収益となっていました。当期にはそれがありません。また、当期は、保険金支払いが幾分増加しました。これらマイナス要因がありましたが、増収の効果がこれらを吸収し、6.2%の増益で着地しました。

<少額短期保険事業>

- ・保有契約件数は、1.4%の増加。このうち、ペット保険は3.4%の増加でした。
- ・保険料収入は、5.8%の増加。経常収益は、4.7%の増加でした。
- ・少短事業のセグメント利益は、前期は若干の赤字でしたが、当期は2億3千万円の黒字を確保しました。

<次期の連結業績予想・配当予想>

- ・（資料 P.26）進行期である 26 年 3 月期の連結業績予想・配当予想についてご説明します。
- ・黄色の列が 26 年 3 月期の予想金額です。増収・増益、増配の予想となっており、3 行目の親会社株主に帰属する当期純利益は、25 億円。4 行目の 1 株当たり配当額は、40 円です。
- ・（資料 P.27）当社は、23 年 5 月に公表した 5 か年の中計に基づき、純利益ベースで、5 年で 3 倍の利益成長を目指しています。
- ・左から 3 列目の 25 年 3 月期までが実績で、これまで順調に進捗しています。
- ・進行期である 26 年 3 月期は中計の第 3 年度で、純利益の予想金額は 25 億円です。最終年度の 28 年 3 月期には、これを 40 億円に増加させる計画です。毎年 25%増加すれば、約 40 億円ということですので、これは確実に達成できると考えています。
- ・（資料 P.28）当社は、通期の連結業績を踏まえ、年に 1 回、期末配当で株主の皆さまへの利益還

元を行っています。連結配当性向 30%前後の水準を目標としてきましたので、これに基づき、本日、25 年 3 月期の期末配当を 23 円と決定しました。前期の配当は、記念配当 3 円を含む 18 円でしたが、当期の配当が 23 円ですので、5 円の増配、増加率にすると約 28%の増加です。

- ・（資料 P.29）これに加え、本日、当社の順調な利益成長を踏まえ、株主の皆さまへの更なる利益還元が可能と判断し、26 年 3 月期以降の目標配当性向の引き上げを決定しました。
- ・ 当期まで、目標とする連結配当性向の水準を 30%前後としておりましたが、26 年 3 月期以降は、これを 10%引き上げ、40%程度を目安として配当を行ってまいります。
- ・（資料 P.30）ご案内の通り、当社は、高い利益成長を目標とした事業運営を行っています。配当は、この目標配当性向を基準に行うため、会社の利益成長に応じて、株主の皆さまへの利益還元が行われていきます。
- ・ 当社の初配当は、23 年 3 月期の 10 円で、以後、18 円、23 円と増配を続けています。26 年 3 月期は、これを大幅に引き上げて、40 円とする予想です。